續徒然草

一

悔いをふるしてふるとぞ易うしてふるいやまち
とてゆきてげ者ふうろうぐそ身のさいそひ
とかなりとう森

西屋の主者が東隣より大きうる者の樹あ
つ。庭中へ枝とうろ。婦とうくうて今ほな
うま者をひてはひさうろ。者ぬあるじゆ
て樹とうらんとうつ。鄰家のくうをと
そむ。あるじ婦とうくさいとうもくうひうれ
いま者をのうつ歳じてうくしそう
宋の漫奇異譚をうしれ奴が銀をどか
ぢくぬとむ。奇異譚をうしれ下のも

岡田眞之藏書

ども留りのふくろ。俵緑とと。かの奴のこ
わづらはしかし。初そうふ舟賢ふ言ふ。
ふるふ。ふ。さうとうくいやしくてとけうは
いうはとひうを。ぬいはまぢとふ。ぬぐう
らしかぐふ。ふ。年祝ふとぬをひうを年
年乃る我ふよりをれをひ人ふ。ぬぐ
ふよれぐわふん。古とぬをとをひうま
ふかしとひて後二百年とあふ。ぬやう
こなをぐとふ。なしふ。震殘してふ
しかり

一後乃ふふ秋乃首とけくふふ。蒲寧とを

ふり。ふを緑色とふぐ。第乃ふ
を華といふ。緑を海年よりり。蒲寧を
海色ふをむ蒲寧りとふを緑をおを色
てぐふをば大ふを。ふよりふりしを色
一時乃後を寅乃時ハ七。卯ハ六。辰ハ五。巳ハ四。午
ハ九。未ハ八。申ハ七。酉ハ六。戌ハ五。亥ハ四。子を九
丑ハ八。寅ハ七。卯ハ六。辰ハ五。巳ハ四。午を九
申ふを丑ハ和漢乃り。年とは寅ふりかを
へてかふをふ。況年かぞふをば未ハ八。申
ハ七。酉ハ六。戌ハ五。亥ハ四。子ふり。申ふりを寅
ばふはかふをふ。震ふを丑ハ八。寅ハ

七和ハ六辰ハ又巳ノ位なりゆゑなり。
又一和とみる又とりハ戌の時と一支とし支
と二支とを合支せを空支寅と支とを合支
てあけなり。一支より始をよつてこれを二十六色
あり。よりうおとこどもり
天乃そとハそとびて此をこれのゆゑなり物
なり。佛乃乃ハをくいてをつるかぶらく
乃人たをうる
日ハ主陽乃精なり。月ハ主陰乃精也星ハ
石乃気にして日のあまをこ辰ハ天地なり月
ハ火の氣乃化をうかるなり。雨ハ水乃気の化を

ふるうるなり。石乃化をうる地
日乃出入よりく。雲和乃出雲行。雲くもりハ
印の地より出て西乃地ハ入。よりて天上乃気く
つと地下とひとつきふるひ。ふるひ。
ふもさあり。夜乃よハ宮乃。戌乃地より入天上
八分地下ハ九分くつ宮乃。亥ハ六十刻和上
四十刻とそ。子乃ハ辰乃地より出く中より入地
下八分天上九分くつ宮乃。和ハ六十刻亥
四十刻なりて大梁方ハ二月中ふあり。秋分ハ
八月中乃。ハ十一月中。夜至ハ六月中に始
乃地年宝乃生ゆ。ひとつ乃ひく

[illegible]

一佛ハ世界二十億滅すれども滅なし
[illegible]
易みて感ずるまでなり
[illegible]
人の見るようへし

一年朝鮮の儒生来るつい時おろ人の扇を
出し。李子が平生ものしを書けといひ
うば。美水濁泥清一点雲秋月揚明
輝一点霞春柳黄鶯弄一枝
とうたはせしとぞ陶淵明が詩の様

代とうりくぼのふ二元よりみぐさ生ける
名徴士といひまたり。雪かろ[illegible]て宋の高
と見ひて結文をり[illegible]支干のことをとりあ
なりき忠臣とうや。松菊をもとりはそのみを
とれりひてをり。[illegible]
も松菊のを霜をおりたゆりかをの子は
ふとで韓雅を[illegible]が和名に屈をもく。晩菊をた
ものまをしとう。元宗が美人花晩菊書
とかどとうは菊の事也
[illegible]
とは大全より作ることや

朝鮮の菊軒と石川丈山と筆談のこと

丈山が初めて日本の李杜なりとうやまつまのことに初学は篤実なるは古人と稱歩なるべし

清水の親がおのづから推敲易簡と朝鮮の略傷のくらべ嘆ずしるべしもし易学よりもてらすべきなり

そのうつりさまは出でんや

明人楊士奇年未だ矣傷子とたとへ隱元の弟子となり佛法を説くとて松永昌三筆談して元の傷俗の程

の傷者を見るに人あるべきを見るにたとへそこなへけり

一とせ大坂の大塚ふまつりあるの傷さらなり蕃なる清水はむしろ物を見るに大坂の塚貴と庭訓もものをあらはす

貴名水のまものり前の大阪貴名清水関海外の名水とえらびて茶の湯をたふり塚貴よりもくらべ毎日高人くらよ

物ら毛しとぎしろ大明の傷の程二井るまうでのたのでよかんとそそちよ

一宿して塚堂主一宿と書けり

[illegible]ハ雲[illegible]とり[illegible]くかんをらんかり
[illegible]ハくこうろハ雅白ふうこ雅白ハとを
[illegible]ん[illegible]ろ[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ハ[illegible]ハ
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆえにとゝのつゝまずして志のうちに抱のこるを
ハ労して功なし。善とゝろハ則ちうしなひ
善悪乃保ハ弱ちうるゝ事
一家乃貴安中つゝよ精まかして書とゝし
毎日わこの乃ちよ経書八百遍。仮ばよ中書
百遍と通しをり。和ハ子書三百遍とゝし
ゆるゝ人ゝ家ゝの梅乃もとゝよりよ枝とよ
ち。家とゝもゝ父乃ゝ
ちゝ初ゝ有よゝ未ゝ
哀父乃墓ゝ
うゝ

ゝ
ゝ
ゝ

風えだをうごかさぬ。面はたちまちとぶ。日
一風ときこゆ。十日より一雨ときこゆ。百穀うるほ
つ。万民たのしみ。天下泰平。
ぶ。ことばのかぎりなし。氣味なかるべしこれ
ふかき也。辛の大吉。春はいとも安穏あらんや。
しうたがひなしこれをやかるるあらん
たとへとたとへば。ものをれんぐみ。
なんぢんと氣もとりぬかして。
うり。災害なく。ものを人をのぶしまわ
さきはうるかな
一実の業。民間の家をたのしむ。

毎月まいにち米八百石と銭八百貫文。人
ともくるしむ。ものを積善の餘慶よりやいたる。
うつくしきはしるしるるむ。又寛文二酉の年米
数たくさん積むの年。
しるしあり。ものを思かるべし。新手仁政にこそ
きて。数万石の米。あと銭よりも。毎日
ものを出。ものを合。
合一の仁風。
孔子の徳。善人家
うへ餘慶ありて。積善の人
善人ものをしたがひ。

ふたはうあるとたうよ惠宮よあくまでぶ
佛まよハ因果とつくるこゝかりてこゝひと
ゝ乃まと。佛よ乃ひとつハ乃ゝ
ゝこの字ハ福たよ行。ゝ乃ゝ乃ゝ
いたゝくゝゝやハ鹿ゝ武ゝ乃ゝ
して行ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ハゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ。甲ゝゝゝ曹ハゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ時ゝ条ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

孝子の人元和録書いはく知らずと雖ども元和録書いはく元の仁宗くりんがたの人なり。女犯肉食の禁を先とし慈悲行ずして女犯肉食をもはぱらとするゆへらわれとそれをかりてとるむ法師ふつうもしらずもしいとまうとまうとまう

我儒の乃命とかうまれとしひ乃仏神法
とあくまでそこ乃ぶ乃中よ信乃行乃か
ちい乃もくぶやうよ祇園しゑ乃宮乃く
ふまとうく知くのまあん産婦乃ほとち
とうけこまつてやとしひ乃ちまばあまこん
人乃中乃まばいつあこいえもいそどぶこ乃こん
とあまばゆ信乃宮婦乃まゆ乃信者乃家
ふつうう産婦ときこうじうう通乃婦乃
して神祇乃ちうと楽とすうと乃問
花紙浮撃紙とあう乃法乃ある家婦乃
さう信乃ちうくうちうあうぶこうるゆうあうと

ひとうつうとふ小童乃家婦とはふ乃家婦
と知ちこうや男うちうやか乃信乃家の書と
ちうこうおうちと信者ちうと知乃ちこうこうこ
ちあまゆふまばいつ産乃通乃ちりふし信者の
人員をひとそんぶんとして撮笑してせんば
ちうこうこまちうこうこして知乃病ちうこう
知ちうこうこうこうこ信こうこうこうこ家
ち居て信書と古神ちうこうこ我仏書
とうこうこうこうこうこうこ時乃信者ちこ
家乃書のこうこうこうこ仏一書とちうこうこ行同わ
ちうこうこうこうこうこうこうこうこ信ちうこ

そうしたが、中僧侶が、易と縁するとも、未練の易
学いうよりそうしたりしむとそしてふ。侍屋敷
ゐ人、中、侍家うく人をとそしてふ。侍屋敷
ゐるうちきけふこのおりうく和学の人、ま
和してかうゐるうく。自分は門弁とゐり
判生ばうさうしんとそ。扇子二かうして礼勢
しうばうそうふうしうゐ。
とそうぐめくうそうそうそうんとそ千人ゐうゐ
先うく学を学ふうぐ続じて続うう。時、侍屋
四十ゐわうゐ学ぐうとつけをうそうとそしうば。
かう侍りうゐ陳ふゐ。

そうう先ゐうゐ生ばゐ学ぐうゐ。侍屋がゐうゐ
い年しやううくたゐ生ゐ書をひろうゐ見ゐ世うゐの
学ゐゐ、所国ゐうと学ゐうそうまううやゐうゐ
い来ううそうむ和ゐ侍書もそまゐ、八月
おうぐたゐ生そ盲人ゐ和ゐうそうゐそ学中ゐ
ゐうそうそうゐ人ゐう。ゐ生初仏ゐ学ゐむ
とゐうひうくいゐゐゐ時ゐ。ゐ、中侍屋ゐ
ゐ学ゐうとういんとゐ。そうそうゐ
たまうゐゐ人ゐをとうくのうまゐ。ゐうゐ
四学ゐんといひうばかゐ侍がうゐいさゐ。
ゐうゐ学ゐ人ゐ二ゐゐ扇ゐうゐそうゐ

まづ伊勢の国の東山にてうしけ
天下八宝國丹波ぶうつくしく瞋と称ぶ
わくも先つ〳〵常ぶ〳〵で世をとうるぶ
とれうし。会佛と昧乃生涯とうり丹波
くつも。父母乃居とし年八歳乃金佛と彩
それら宝よりまうせて彩彩し。紙おう乃ける
ぐ小業乃居をむそびてわかまし。ぶてる
乃地よりしとうりぶ山中ふ
こをりわくやをとらふるをいてわるまり
文性八善元ふよりとしいぶ宝色とそ

ど。伊勢乃山田ふ東よりうりてた
と彩しとうり廣乃衣未彩ぶうこざめまりお
八弟よりまでであるしこを張乃ものくるる
をしお男ども色合りくおりひてるいぐ彩
よ彩しとう。ふ八伊をう乃ものまりをまりくへ
色八同名丸信まぐ出くりまりば文性ありぐ
ものどりを信彩よつげうまりば屋りてものでぐ
うやくしうものうを色八男ども色ものまを
ひるの信彩乃小紬とうりおりてこを衣をう
うくへとあるまど我八うう乃独八一生身よりを
ぬをそうへりけうをあう付山田のをふりをへ寿

うちつまて紙こそ綴て年ゆきとしを
ふる髪は前小縄とけはぐ〻まうそたる
まゝとゞめ十歳より寅より殺生したるしま
つゞと殺生をしはゞ人をはやらんと僧侶
第ゝ所ゝとゝこそ所ゝ人ゝ殺とうと
まゝてゞふゝしゝ殺とうと
まゝて沙門のゝんゝ

ゝゝ元四九八歳寅より矢年あり婚姻
ゝ年ゝと放逸中るたまゝ月ゝくはら
風神秀徹ゆゝ家ゝたゝべゝて西ゝと契約
しゝを年ゝゝと物分しけゝと物をたゝ人ゝ

なゝるゝ大僧ゝゝゝ一ゝを物はゝ者ゝ物ゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝひけゝ者ゝ魚漁仕ゝて文百ゝ乃稼と
ゝゝ殺中るゝて西ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝまゝゝまゝに徳とこのゝ者ゝゝゝゝゝ
又吉村ゝ義勇と名ゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝて乃人ゝゝゝ乃稼ゝ
ゝゝ百ゝ乃ゝ百ゝ百ゝ乃ゝ百ゝ百ゝ
ゝ者ゝ乃英雄ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

西年ゝて文歌ゝゝゝゝゝゝゝゝ
芋ゝゝゝゝゝ乃城主代ゝゝゝゝゝ

ふもと山として、宗八と英金三子数ましまして、他国より来数とりて、えんようをづくしの人
の家をたてけらるるうち、金森氏乃ち忍ぶ
うえんとそ人いひけり

一年尾張名古屋の町中数千の家、但
福をしよ大守ちと英金数万あと枝末
をとくとうりく家をたいりてる
人ちびしまだ国よりでそ乃ちはやわり
いさくの巨をとうどすぐさまもだ
門上海のくれ京中一部ものを貴月たまと
つそうとうきちゆとよあれ百三千年金

百卅

ふ乃ちしてみる部しうり奥の前乃ちもと
佐をして去年京ちりしぐ。永彼の一町宮
乃佐屋のちくもにをちくをんとそどちわり
なとよ。百三十年つあくらをしぐ佐まで彼
他乃巨源とうにまあと人のりとそ
一乃形として人まづとあるよ。あくとに芋一
米と貴ちてぐ乃ちもそ後とうち
ぐ佐後とうくて米ちとうぐ家ようくく
ことそ乃ちまづ中中よ金人ありどをやるふ
人よりとそぐふ巨ちしよ佐年ちうを歳
じで宮いそちくんとくいぐく後してう

百卅

あるど。梁の武帝そうでん。先こまとんりとまれ
て天下をまつるふびて甄格とうびゆ。甄
ゆの刺史とまを同時よ人間寺とうて。
うく唐貞とたうをせうといまう先まとう
も甄格どういかの金をうをうどの元
なるいとそいさうをそれまうの
京なうう人書籍とあうをうひようるをしう
りくあまうが金ニ千毎ひうむてびうまま
ぜうまうう人のあうんとそうぐばうう
そのうあひうとうんじ系金をうりとうぐう
じうそのううりうが銀ん貴より撒して家源

ー附して学ぶうそうまうんとうてびうむうる
人のぜうくうりうとうまいあうをうひんや
てううをうれ
六十あまるとの暁ばひうとの後前と金に
稚ちうぐ殺法をびきうで。最日をうる時
うり佛おの後とあうをてたりういまてうた
びうをうりうう人うえ
む出りをか
人のうをむうあの塚ふうりうぜうりう。
学をうをいバ稚うをいをうをいを。
強をよ免バ佛ーと行りひ学をうれ賀貴

と称するひさかたの天の御柱の御門の名を此とそれは名わとそふも
山居の幽寂を称するなり
古文拾集をもてて前集をまた老子
荘子をもてなり。孔子を日月のいうもそや
和歌のあもりよふくに経をもはぶくはそれ
たゆるとも毎日八神国にあらず
あまねく神をもとめてもとめたり
つていく和歌をふちぶてたり
天国の仏は儒をもまるり経はの
ふくいのどこそ。まかとば年生うえ

人うまく物をもとめや
との神人面神一習合の御わるあよふ源
の神をよふ。さいくひよ伊勢ものも
法性義の生尼つよ者也ば京源一統よい
ものうさしと人ア永
面代の名人。神をよ伊則。平の尼ハ
光宅ハ法華。仏者ハ文性沢尼ハ堂僧よ
ハ僧寛蓮山昌之。約ようは丈山元政。結言ハ
を法華光悦。生ハ習孫玄仍ハ玄仍
玄治。鄭樵ハ真徳玄南。法ハ探幽。結ハ七
生文。しかもうちうち人ものを

毛果子の稚無いの手よ。爲の弟八ちゝてこ
ゝろのとゝこれ爲まよ。れ。ゝ。ゝ。ゝ

そ先ようる書いとをけつとをけつ仏ぶ八
のたとけうとろうくきに又門不明強とて
書とうそ儒ぶとそそ子。我慢のはいと
みくし

山家のいと昔戦百稿六三悪言言百宮
六四三歌とつ八さう行く免百ぶたうへ
百ぶうろ宮ぶと宮ぶと語歌もいひし
ひどしてはさむ人も一生のと
月をぬげてそそらりどたこぶつ
宮すうきつ。弱子英みがこようむろり
会のりり八央よてしいぐろるれを結と

そもそもろ仏むとば寄ようる。
知をもつくへとおもふ儒は行くぶ
ものさうひの門と古人もひしぶ天下とみうと
一ぶとんとれたうし一歌八宮宮とへ
籠秦後儀が籠も那まのはとよへうもの
さうじ。ふつさうふ若八儒とりて仏ぶとう
しぶ。仏八儒八れしたり。仏いまうとと。ぶ三
ふ。儒仏の海いふしへうへ久。ぶ儒の儒と
そしふり。朱喜八漢唐の士と賢。主楊
明義了ぶ八行朱の語と他待しうり。ぶ親
の光統律師の生慶と海城ようけ

麿と毒してこうあり。是こそ辯とこそ
乃失なり。一思一慮の益とぞ。あらりひてこそ
「善を失ひ乃ごとだれさえさまばこうやうと
ちうとの事」
「山賀の人。百日ぞうりふうりたくしこをつ
どうしよ。是かぞ乃決けさて。何乃日のうち
なり。一生乃善悪も一人乃いうよりそひ
のうちあり。仏。華厳。教理。よとけ乃事
毋ふとまりて。ものしし
「乃ちうたけ乃ちど日和忠とうくしなる
はうりとうたべしくれりひいよりうう

だいうとうけよりうくうくうくづくづくづ

いとづゝ　ちゝ
花ゆゑ家に入てもうくやとらふよ。一の婦を
うちわゝし。婢はいとうるはしいもとがく
いもゝまゝとへいぶつゝがかちうゝ神ぐらい
ゝゝ若俄屋さしうゝ主ど徳ゆゑ　おい屋
と行もつゝ徳をとりもとゝそいひけう
「千い京郎の風俗ゆゑうゝ海ざうゝ人いつまぞや。
うゝじゝうくわゝそゝ世人うゝゝゝ
かゝきふゝゝぞ。くゝ郎ゝうや神もひゝ
ゝうゝ紅ゆゝ情をゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぞゝゝゝゝ書ゝゝゝゝゝゝゝゝ

も行方の色うゝ万葉集ゝ三百篇ゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
彩古今ゝ脱屋の風ゝ花実おゝゝ
くゝゝゝ千の付ゝ
ゝゝゝゝ
「ゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そもそもこれ人身ハ乾坤の間ニ生ルゝ物ハ
ことごとく人ハ万物の霊ニして
とくくハ人ハ霊ニ
人の霊人とそなハるまハ人ハ
ときハ凡ようて
已ニ身をうふしなひ
出ふよりこの世ハ父母の家とそなハ
帰よりハ入ようとそなハ
仏果を求ていこの世ハ
元亨利貞ハ天ノ
ものの道ハ仏ノ
人数の多きとしひしこゝろ
のりてあつまりこゝ
ことハ知ノ
元亨利貞ハ天ノ
まで。まハ元ノ
秋ハ利。その貞
人ノ信。
うぐく付ハ
ノ心肝腎肺
なりまし。信と

ものの道ハ仏ノ
人数の多きとしひしこゝろ
のりてあつまりこゝ
ことハ知ノ
元亨利貞ハ天ノ
まで。まハ元ノ
秋ハ利。その貞
人ノ信。
うぐく付ハ
ノ心肝腎肺
なりまし。信と

明応日向の石田二成いと王莽菅阜にひさ
王莽の屋の代とうじてゞはみ年新玉
とたゞち菅阜後漢の天下とゝめとゝてたづ
くこゞ物とり。四和伝説と紙ゝそうづた
る高高ちう。稲二成天皇のみ家うやゝ風
たゞまやゝむ。ちゝ菅阜行ひて遥の
中行て菅とゝ菅行ゝづゝ。ちたもきゝりたる
ちを伊勢八富もよりこう。誇多遥法年八雄ゝあり
孔子の大成八天の金ゞ。伯夷ゞ清い稜ゝ
れうゞ都ゝ十重ゞ和八まゝ乃温暖よひゝ
水は方ゝ乃ゝ。ちゝ。ちゝ。ち

曉餘採筆 上

紅雪